

デジタル時代の和本リテラシー 古典文学研究と教育の未来

人と人が国や地域を越えてオンラインでつながる。

その先にある研究の、教育のあり方とは。

デジタル化がもたらす、

〈新しい〉古典文学研究や教育について、

様々な取り組みから見えてくる課題や

今後に向けた知見を共有します。

2021年
6月12日
【13:30～15:40】

プログラム



13:30～

開会挨拶 小菅隼人 慶應義塾大学教養研究センター所長



13:40～

佐々木孝浩

「書誌学の国際的なeラーニングとワークショップを通じて」

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫



13:50～

ラウラ・モレッティ

「AI時代における和本リテラシー —海外の研究者を育て続ける未来—」

ケンブリッジ大学



14:00～

海野圭介

「大規模画像蓄積からデータ駆動型の研究・教育へ」

国文学研究資料館



14:10～

宮川真弥

「紙面と画面 —「翻刻の未来」続貂—」

天理大学附属天理図書館



14:20～

山田和人

「古典教育に学会は何ができるのか —出前授業から見えてきたもの—」

同志社大学



14:40～

全体討議

ディスカッサント：勝又基 / 司会：津田眞弓

明星大学

慶應義塾大学

オンラインで
開催します。

参加のお申し込みはこちらへ

